

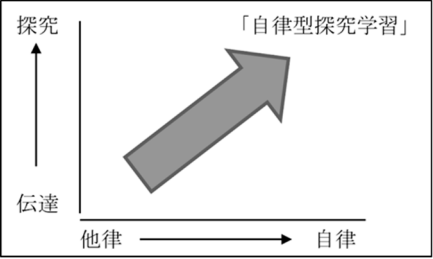


ちばっ子の学び変革！

研究指定校の取組（令和元年度）	
校名	県立小金高等学校
研究概要	<p>○研究主題「能動的活動による能動的学習者の育成」</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒が主体的に物事に取り組む姿勢、能力の育成。・教育の大きな潮流をとらえ、生徒が能動的に学ぶことによる認知的、社会的能力、教養、知識、経験等を含めた汎用的能力の育成・生徒の自調自学をめざす <p>アクティブ・ラーニングの学びが提唱された背景には、AIの登場、Society5.0の提唱などにより、これまで作り上げられてきた様々な社会の仕組みが変化するパラダイムシフトが起こっており、教育の分野でもその変化に対応した仕組みへの転換が要請されている、という状況がある。こうした状況の中で、私たち教師が規則・標準化を行う授業ばかりではなく、多面・多様化を目指した教育への転換が不可欠となった。生徒自身が社会で活動していくための土台づくりだけでなく、多様性や創造性といった力を付けることで新しい社会を創っていく人材となるような教育が必要である。ただ知識を得るだけでなく、自ら考える力、能動的に物事に取り組む力、自己肯定感を育成するために、アクティブ・ラーニングという学びが不可欠である。本校の教師が目指す研究の目的は「能動的学習者の育成をめざす授業研究」である。ゆえに本研究において教師が生徒を指導する際、目指すべきこととしては以下のことが挙げられる。</p> <p>「生徒の能動的活動」</p> <p>「主体的に物事に取り組む姿勢・能力の育成」</p> <p>「能動的に学ぶことによる認知的・社会的能力、教養、知識、経験等を含めた汎用的能力の育成」</p> <p>「生徒の自調自学」</p>

<p>研 究 概 要</p>	<p>生徒自身が単にプレゼンテーション能力やスキルを身に付けるだけではなく、学習により得られた知識を問題解決にどのように活かすか、さらにそれをどう説明するかなどの表現方法も学ばせ、協働学習を通じた自律型探究学習（図）により問題解決に結び付けるためには何をすれば良いのか、という点に本研究の主眼を置いた（PBL 教育）。</p> <p>我々教員の研究テーマとしては下のようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングでの学びの検証 ・グループ・ワークでの学びの評価検討 （ルーブリック評価を含む） ・アクティブ・ラーニングの技法や意義の研究 ・アクティブ・ラーニングの表現方法の検討 ・インプットやアウトプットに必要な言語活動 ・プレゼンテーションの手法、クリティカルシンキング ・各教科特有のアクティブ・ラーニング ・探究学習と SDG s <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  <p>図：自律型探究学習</p> </div>
<p>実 践 内 容</p>	<p>○アクティブ・ラーニング学習会、検討会の実施、協働学習に必要なスキルの習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 教育を目的としたタブレット授業の展開 講師 株式会社ロイロノート 鍵本 優紀氏 ・年間を通じたタブレットを用いた授業展開の研究（随時） 生物基礎 1 年間オールタブレット ・KP 法（紙芝居プレゼンテーション）、ジグソー法による授業展開の検証

実践内容	<p>○校外視察</p> <ul style="list-style-type: none">・東京都立国際高等学校・新渡戸学園高等学校・筑波大学附属高等学校 <p>○校外研修</p> <ul style="list-style-type: none">・産業能率大学：授業力向上セミナー ファシリテーション講座・産業能率大学：キャリア教育推進フォーラム アクティブラーニング実演・ロイロノート研修・(株) ベネッセコーポレーション ICT セミナー <p>○ICT 環境のさらなる充実</p> <ul style="list-style-type: none">・総合学科棟をラーニングコモンズとして整備・タブレット (iPad) の3 2台導入 Wi-Fi 完備・アプリケーション/ロイロノートの導入と授業展開の研究 <p>○教師がお互いの授業を見合う環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・「見に来てください」カード・指導者、指導をうける側の関係ではなく、お互いの授業を見合うことによる相互の学びの環境づくり・授業を見学する目的「自分の授業に生かせるヒントを得る」ものとなるようにする場づくり・授業者の言動だけに注目せず 「クラス全体や各グループの雰囲気とその時間的变化」 「生徒の発言や行動の様子、その時間的变化」に注目するように互いに意識・気づきを記入、そう感じた具体的な根拠も授業者に還元など (例)「クラス全体に活気があると感じた」「笑顔の生徒が多い」 「下向いている生徒やじっとしている生徒がほとんどいない」・なるべく「いいな」と感じたことを還元し相互見学のハードルを下げる。 実りの多いものにする声かけ。
------	--

実践内容	<p>○11月12日 アクティブ・ラーニング公開授業</p> <p>研究主題 「能動的学習者の育成をめざす授業研究」</p> <p>期 日 令和元年11月12日（火）</p> <p>講演会、全体 大谷大学教授/元京都市立堀川高等学校校長 荒瀬 克己 先生</p> <p>日 程 12:35～13:20 授業公開Ⅰ（8講座） 13:30～14:15 授業公開Ⅱ（7講座） 14:50～15:40 荒瀬先生講演会 15:55～16:25 ポスターセッションによる振り返り会</p> <p>◎今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none">・チームで協力するというルールがづくり（生徒も教師も）・グループワークの介入の効果的な方法の研究と検証・協働学習の研究と検証・「気づきを促す質問」の有効の検証「役に立つ質問」「価値のある質問」・ICT環境のさらなる充実と職員への還元・総合学科棟のラーニングコモンズ化・SDGsの考え方による授業の展開の研究
------	---